

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0015
東京都東大和市中央1-539-15
http://www.yumuyu.com/
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create, TOHOKU!

無料

第109号

毎月発行

発行 2021年(令和3年)6月16日 水曜日

2021年(令和3年)6月16日 水曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、67歳の新人歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】の大崎上映会は延期。とりえ新型コロナ禍を乗り越えて4作目制作に向けて奮闘中。趣味は古代史・縄文文化研究。埋もれた歴史を発掘することと東北を日本を変えることを標榜。



コロナ禍終息後の 東北はどうすべきか？

コロナ禍軽微の東北の回復は早いかな？ 名ばかり復興五輪の影響も軽微、混乱の極 みの大都市圏をよそに持越課題解決を！

都道府県別累計感染者数
(2021/6/14)

朝日新聞データ

東京都	166,578人
大阪府	101,897人
神奈川県	64,336人
愛知県	49,927人
埼玉県	45,097人
北海道	40,546人
兵庫県	40,544人
千葉県	38,527人
福岡県	34,996人
沖縄県	19,569人
京都府	16,365人
広島県	11,255人
茨城県	10,147人
岐阜県	9,096人
宮城県	9,036人
(15位)	
静岡県	8,881人
群馬県	7,983人
奈良県	7,961人
岡山県	7,551人
栃木県	6,688人
熊本県	6,404人
滋賀県	5,428人
三重県	5,148人
長野県	4,937人
福島県	4,718人
(25位)	
石川県	3,880人
鹿児島県	3,594人
大分県	3,468人
新潟県	3,365人
山口県	3,069人
長崎県	3,068人
宮崎県	3,053人
愛媛県	2,736人
和歌山県	2,653人
佐賀県	2,539人
青森県	2,448人
(36位)	
香川県	2,066人
山形県	2,011人
(38位)	
富山県	1,964人
山梨県	1,849人
高知県	1,667人
徳島県	1,646人
岩手県	1,599人
(43位)	
福井県	1,065人
秋田県	763人
(45位)	
島根県	550人
鳥取県	466人

地域別新型コロナウイルス 感染者累計と東北

紙面右端に、今日十四日

現在の都道府県別新型コロナ
ウイルス感染者の累計デ
ータを掲載した。

データは朝日新聞社によ
るもので、データの一部切
り取りと東北各県の順位付
けは筆者が行った。

これを見ると予想通り東
北六県の順位は総じて低い。
最も感染者数の多い宮城
県で十五位。次が福島県の
二十五位。青森県の三十六
位、山形県の三十八位、岩
手県の四十三位、秋田県の
四十五位と続く。そういえ
ば、岩手県は最後まで感染
者ゼロを続けていた。
また、東北六県では唯一、
宮城県が四月五日からまん

延防止等重点措置を適用し
四月二十五日からは緊急事
態措置区域としたが、今日
十三日で終了となった。

これらから総じて言える
ことは、東北六県のコロナ
禍被害は幸運にも小さいと
いうことだ。

大都市圏のコロナ禍被 害は感染だけではない

感染者データはともかく
として、東京圏のコロナ禍
の影響範囲は想像以上に広
く、大きく、ダメージは長期
間に亘って続き、実質的に
回復するにはかなりの長期
間を要するだろうと思う。
どこかで「形式的な終息
宣言」が出されるだろうが、
それで終わるとはとも思
えない。基本構造が変わる
だろう。

それは東京圏だけのこと
ではなく、感染者数上位の
大都市圏すべてにもあては
まることと思う。

PCR検査を限定された
範囲でしか実施しないとの
誤った初期判断や、遅れに
遅れているワクチン供与と
かいうような、狭い意味で
の新型コロナウイルス対応
のまずさという範囲の話に
とどまらない。

それ以上の打撃は、この
国の社会システムがコロナ
禍にまったく対応できてい
ないとの絶望感である。

コロナ禍に関する情報が
きちんと整理されない、開
示されない、対応のすべて
が後手後手となっているこ
とがはっきりと理解できる。
初めての感染者出現から一
年半にもなるというのでは
ない、何ら状況が改善されな
い、他国の状況と比較して
も日本の遅れと対応のまず
さは突出しているなどなど。
このどうしようもないとい
う絶望感を抱かせるよう
な国、都、都、都、都、都、
都の対応には目を覆うばか
りであり、この先、壊れた社
会システムはいつたいてい
なるのだろうか、不安にから
れるばかりである。
日々TVメディア等が報

道するのは、自粛要請にも
かかわらず人流が増えたと
か、居酒屋の酒類提供禁止
で外での集団飲酒が問題だ
とか、ワクチン供給が遅れ
ているだとか、ほんの表面
的な事象を取り上げること
に終始している。

しかし、国民はそうした
表面上の情報には惑わされ
ていない。

この混乱でイライラした
人々が、責めるべき相手を
見失い、「ルール」を破る人
に攻撃を加えるなどという
現象も起きているが、「真犯
人」はそこにはいないのだ。
マスメディアではわずか
ばかりの報道であるが、コ
ロナ禍により経済的に打撃
を受けている人々や企業は
数知れない。その痛手も想
像をはるかに超えている。

それをまともな報道した
らどうなるのだろうか。情
報のダブルスタンダードが
明らかにようになったらどう
なるのか。
やはり、ズタズタに傷つ
いた社会への信頼感が一番
の課題なのだ。
特に筆者の暮らす東京圏
で、そのダメージが大きい。
東北にもコロナ禍による
ダメージは当然あるとは思
うが、東京圏と比較したら

段違いだと思ふ。 名ばかり復興五輪の 追い打ち

そうした混乱の極み状態
に追い打ちをかけるように、
来月から東京オリンピック
が開催されるというのだ。
目の前の大課題も解決で
きないのに、さらにこの大
イベントにも対応するとい
うのであるから、成功の確
率は、太いロープを針の穴
に通すに等しい。こうした
向こう見ずな決断をする政
府は完全にバランス感覚を
失っていると思えない。
「二兎を追う者は一兎を
も得ず」とはまさにこのこ
とであり、その結果を見る
のが恐ろしい。

ある意味で政府と一体化
した東京都を除き、各道府
県のコロナ禍対応は、政府
のお粗末さに比較したら断
然良い。
今更ながらではあるが、
各道府県の知事会の決定に
政府が従う形であったなら
ば、こんな状況に追い込ま
れることはなかったと悔や
まれる。
それはともかく、東北各

コロナ禍後の課題

そこで、これまで当新聞
が何度も取り上げた東北の
課題を思い起こしてみよう。

① **まずは、人口流出対策**
「移住」オンリー路線から
「ダブルレジデンス」(複数
居住)戦略に切り替えて推
進すべき

② **テレワーク基盤整備**
これまでのような大企業誘
致からテレワーク受け容れ
に路線変更、費用も少なく
て済む

③ **ムラ意識排除**
高齢化集落は排他的傾向が
強い、これをなくさないと
住みつかない

④ **転居ムラ設置**
解決のためのいつその事、
転居者のみが住むムラでも
建設してはどうか
どうか、東北六県の知事、
首長のみならず、団結して、
上記施策を推進されてはど
うだろうか？

シリーズ【東北の郷土芸能】第2回 【しし踊り】について ナゾ多き由来にロマンを感じる郷土芸能



ヤキ族の鹿踊り

シリーズ【東北の郷土芸能】の第二回は【しし踊り】を取り上げる。タイトルには【しし踊り】と表記した。下の解説にもほんの一部を紹介したが、各団体には流派があり、その漢字表記はさまざまある。それを間違えると大変なことになる。そのため

ざわざひらがな表記にした。この郷土芸能のルーツはさまざま言われているが、筆者は「狩猟民族」としての遠い祖先の匂いがしてならないのだ。それが、さまざまな郷土芸能と混じり合っただけで、いまの形になったのではないかと秘かに思っている。

当たりまえのように「農耕民族」と言われてきた列島の日本人の伝統芸能とは趣を異にしていると思えてならない。発祥の地と言われている旧伊達藩領域というのも、なんだかそれを裏付けるような気がしてくる。

また、前号でも触れたが、夜に見る【しし踊り】は野性的な荒々しさを感ずるといふこともある。このテーマはずっと引きずって行こうと思う。

＊
そういうえば、鹿にまつわる踊りを世界的に調べていたところ、非常に興味深い事実に行き当たった。メキシコのソノラ州やシ

ナロア州、アメリカ合衆国のアリゾナ州に住むヤキ族(Yaqut)には、頭に鹿の面を付け、鳴り物を持って踊る鹿踊り(Danza del Venadoがある)。作家の故城山三郎氏が著書『望郷のとき 侍・イン・メキシコ』の中で、ヤキ族が自らを日本人の子孫と称し、東北の鹿踊りに似た踊りがあるらしいという噂について触れているようだ。

【しし踊り】が、つなぐ、日本人とヤキ族の話、どうやって古代日本人がメキシコまで渡ったかなど、ロマンを掻き立てずにはおかない。

＊
こうした逸話まである【しし踊り】は、下にも記載したが、岩手県を中心にしたイベントで見られる。ぜひ生の【しし踊り】を見て、筆者の言っていることがけっして誇張ではないことを実感していただきたいものだ。

その際は、昼ではなく、必ず夜ですぞ！

＊
この際は、昼ではなく、必ず夜ですぞ！

＊
この際は、昼ではなく、必ず夜ですぞ！

＊
この際は、昼ではなく、必ず夜ですぞ！

＊
この際は、昼ではなく、必ず夜ですぞ！

＊
この際は、昼ではなく、必ず夜ですぞ！

①【しし踊り】は鹿にまつわる伝統芸能であり、主に江戸時代の南部氏領(盛岡藩陸奥国領)、伊達氏領(仙台藩・一関藩の陸奥国領、および、宇和島藩伊予国領)、つまり現在の岩手県、宮城県、そして愛媛県宇和島市周辺で受け継がれている伝統舞踊である

② 呼び方には「ししおどり」および「しかおどり」があるが、その表記はさまざま存在し、【鹿踊】、【鹿躍】、【獅子踊】、【獅子躍】、【鹿子踊】、【鹿子躍】があり、似通った漢字があり、注意しなければならない

③ 踊りの形・様式：シカの頭部を模した鹿頭とそこから垂らした布で上半身を隠し、踊り手がシカの動きを表現するように上体を大きく前後に揺らし激しく跳びはね踊る「太鼓踊系」の伝統的な踊りは神社での神事やお盆に際して行われ、鹿頭をかぶった踊り手が8人(ハツ鹿踊)ないし12人集まり、仲立を中心に各々が役回りを持った演目が舞台に見立てた場所で踊られる

④ 踊り手が演奏を行うかどうかで大きく2つの系統に分けられる
イ) 踊り手が演奏を行わない「幕踊系」・・・踊り手は鹿頭から垂らした布幕を両手に持って踊り、踊り手とは別に祭囃子の演奏者がいる
ロ) 踊り手が演奏を行う「太鼓踊系」・・・腹につけた締太鼓を叩きながら踊る

⑤ 由来: 様々な説があり特定できない。起源伝承に念仏踊りと共通するところがあり、発生の原点は念仏踊りで、伝承の経路には山伏修験者が介在していたことを思わせる 概括的に見る限りでは、命を失ったものの怨霊を鎮魂し、祖霊精霊の供養のためと思われる

⑥ 「太鼓踊系」流派: 大きく行山流(ぎょうざん)、金津流(かなづ)、春日流(かすが)の3つに分類される 最も古い行山流から、金津流および春日流が分派し、行山流においても諸派(仰山流、山口流、奥野流、奥山行山流、早川流ほか)に分かれた 行山流は現・宮城県本吉郡南三陸町志津川、金津流は現・宮城県仙台市泉区(旧・宮城郡国分松森村)、春日流は現・岩手県花巻市東和が発祥地と 考えられている

⑦ 主なイベント
イ) 岩手県花巻市・・・「花巻まつり」では、太鼓踊系鹿踊の各団体が、それぞれの演目で一斉に踊る
ロ) 岩手県北上市・・・「北上・みちのく芸能まつり」では鬼剣舞がメインとなっているものの、多くの太鼓踊系鹿踊の演目が舞われ、鹿踊のパレードも行われる
ハ) 岩手県奥州市江刺・・・「江刺甚句まつり」(5月上旬)や「みちのく盂蘭盆まつり」(8月中旬)で「百鹿大群舞」が踊られるようになった。えさし藤原の郷では、ハツ鹿踊の定期公演が4月下旬から11月上旬の毎週日曜日午前・午後2回行われ、8月16日には「百鹿大群舞」が行われている
ニ) 宮城県栗原市一迫町・・・「みちのく鹿踊り大会」では、岩手・宮城両県の鹿踊団体が複数集まる

第82回

水産業再興のための料理レシピ紹介

今回は松本さんがお休みのため6月が旬の魚介類を紹介します！
6月は魚介類の種類も大変多く、全部取り上げるのはむずかしいのでほんの一部を！



ホヤ：刺身や酢の物が一般的！



岩ガキ：養殖物の旬とは違います！



マダコ：国産物が少なくなってます！



キス：天ぷらが美味しい！



鱧(はも)：湯引きの梅肉添え、いいですね！



ホッケ：昔はよくホッケ定食たべたなあ！

延期から1年半経ちました。日本酒好きにとっては『地獄の日々』でした。でも、酒蔵の皆さんは比べものにならないくらい大変だと思います。居酒屋での飲酒が解禁されたら【1年半の空白】を埋めるほどにタラフクいただこうと思います。それまでは家飲みで辛抱します。早く美味しい東北地酒をみんなと酌み交わしたい！



写真でお伝えする **東北の風景**

写真撮影 尾崎匠

『6月の花々でコロナ禍をぶっ飛ばせ！』



八幡平の「ドラゴンアイ」、各地の「ドラゴンアイ」

生きている八幡平

八幡平(はちまんたい)は岩手県と秋田県の県境に位置する標高一六一四メートルの台地状の火山である。以前は国内における楯状火山(アスピーテ)の代表例と言われ、学校の授業でもそう習った記憶があるが、その後この見方は否定され、今では成層火山が侵食を受けて台地状になったものと考えられている。

八幡平アスピーテラインや八幡平樹海ラインといった山岳道路も整備されており、山頂近くの駐車場から山頂までは徒歩で約20分で行ける。ただし、山頂からの眺望はそれほどもなく、奥羽山脈の雄大な景色が眺められるビュースポットは、見返峠や大深沢展望

台など、山頂近くの別のところにある。

このなだらかな山容を持つ山が紛れもない、今も生きていく火山であることを実感させるのは、その多様な温泉の存在である。岩手県側には、標高一四〇〇メートルという東北で最高地にある藤七温泉、近くに日本初の地熱発電所がある松川温泉、秋田県側には、箱蒸し風呂や泥風呂など様々な温泉浴ができる後生掛温泉、八幡平で最も歴史があるという蒸ノ湯温泉、日本一の湯量、湯温、酸性度を持つ玉川温泉など、多彩で数多くの温泉がある。八幡平周辺で、源泉が異なる温泉宿に泊まり歩くと思えば、ゆに一ヶ月は掛かると思われる。

「八幡平」の名の由来

この八幡平、東北の中でも有名な山ではあるが、どのような経緯でそう名付けられたのかよく分からない

執筆者紹介

大友浩平

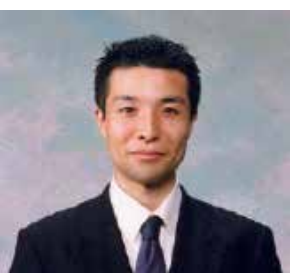
(おおともこうへい)

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

http://blog.livedoor.jp/anagnasi/

Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo



ところがある。一応、その名前の由来としては以下のように説明されている。東北の蝦夷征伐の命を受けた征夷大将軍の坂上田村麻呂が、頂上付近で、瑠璃色の水をたたえた沼や美しい花が咲いている場所を発見し、その美しさに感動し、全軍をその場に集めて戦の神様である八幡大菩薩に必勝祈願した。その後、蝦夷に勝利した坂上田村麻呂が再び山頂に登り、八幡大菩薩に戦勝報告し、感謝をこめてこの山を「八幡平」と呼ぶこととした、というものである。

史実から言えば、坂上田村麻呂はこの地までは来ていないので、そもそも名前前の由来としては眉唾な話である。さらに言えば、この言い伝えで「八幡平」の「八幡」までは説明できるが、「平」の方の説明は何らなされていない。山頂が平らだったから「平」と付けたのか。実際、静岡にある大和武尊伝説に由来する丘陵地が「日本平」と呼ばれている例もある。ただ、それならば「平」は日本平と同様に「だいら」または「たいら」と呼ばれて然るべきである。にもかかわらず「はちまんたいら」でも「はちまんたいら」でもなく、「はちまんたい」と呼ばれているのが不思議と言え、不思議である。そもそも、「平」に「たい」という読み方は本来ないのである。坂上田村麻呂由来ではない名前の

一週間ちよつとしか見られない風景

そのような八幡平に、一年のうち五月下旬から六月中旬くらいの間だけ現れる景色がある。「ドラゴンアイ」である。八幡平の山頂付近にある鏡沼という沼が雪解けする際に、大きな目玉のような形になることから、誰が名付けたかいつの頃からかそう呼ばれるようになった。

冬の間は凍結し、雪原の中に埋もれているが、春になり周囲の雪解け水が鏡沼に注ぎ込むと、沼の周囲は雪が解け、中央部のみ雪が残る。そしてさらに、中央部に残った雪の中心部にある雪が解けるとそれが「黒目」のように見えるようになる。そのようになるとドラゴンアイは「開眼」となる。地元ではよく知られた現象だったが、ここ数年各種メディアでも取り上げられSNS等ネット上でも画像が頻りに投稿されるなどしてよく知られるようになった。今や週末など、山頂近くの駐車場が満車となり、空き待ちの車で大渋滞が発生するほどの人気スポットとなった。

由来が他にあるのかどうか少し調べた限りでは見つけられなかったが、興味をそそられるところでもあり、いざれ詳しく調べてみたいものである。

その鏡沼の雪解けが「ドラゴンアイ」と名付けられたのは、この地域に龍が棲むという伝説の存在も大きかったのかもしれない。山麓に「金沢清水」と総称される七箇所の湧水群がある。それについて、この地域に棲んでいた七つの頭を持つ龍が地中に潜り、そこから地表に頭を出した七箇所がこの清水の湧水口になった、という言い伝えがある。

八幡平に残る龍の伝説とクラフトビール

この「ドラゴンアイ」を製品の名に冠したビールもある。東京にある「暁ブルワリー」が昨年、この八幡平の地に新しく醸造所を設けた。「八幡平ファクトリー」と名付けられた醸造所がここに設けられた大きな理由がこの、金沢清水の水の存在だったそうである。



「日本名水百選」の一つにも選ばれた、八幡平が育んだミネラル豊富な水に暁ブルワリーの社長が惚れ込み、休止していた第三セクターの施設を買い取ってクラフトビールの醸造所に改装したのである。

この名水にふさわしいビールを、ということで、ビールの原料となる麦芽やホップはすべて、農業や化学肥料、遺伝子組み換え技術などを使用しないオーガニックなものとしている。私たちが知る限り、一部の製品がオーガニックなクラフトビールという醸造所はあるが、醸造所で造るビールがすべてオーガニックというところは、少なくとも東北には他に見当たらず、全国で見てもかなり稀有な存在なのではないかと思う。一年の間でごく限られた期間にしか見られない「ドラゴンアイ」の名を冠するにふさわしいビールと言える。

各地にある「ドラゴンアイ」

さて、「ドラゴンアイ」

現在、四種類のビールが缶ビールで出ている。缶には「ドラゴンアイ」が描かれ、その反対側には龍の絵が描かれている。「ドラゴンアイ」を眺めながら飲むビールにこれほどふさわしいビールはないと言える。醸造所で直接買え、八幡平の山頂レストハウスの売店や八幡平市の「道の駅にしね」などでも買える他、岩手県内のファミリーマートでも購入できるそうである。ちなみに、「道の駅にしね」のレストランでは、地元のはうれん草を使った緑のカレーを鏡池に、温泉玉子を載せたご飯を「ドラゴンアイ」に見立てた、この「ドラゴンアイ」が見られる期間のみの限定メニュー「ドラゴンアイカレー」が食べられる。

さらには調べてみると、八幡平と奄美大島以外にも「ドラゴンアイ」は存在するようである。少なくとも白山の翠ヶ池、御嶽山の三ノ池も「ドラゴンアイ」と呼ばれていた。こちらは八幡平と同様、雪解けの時期

に見られる「青い龍」の「ドラゴンアイ」であった。こうして見てくると、つづくこの情報伝達の技術が発達した現代においても、意外に自分たちが住んでいる以外の地域のことについてはまだまだ知らないことが多いということを実感する。「ドラゴンアイ」についても、ここに挙げた以外にもまだまだ他地域に知られていないものがあるに違いない。この連載でよく東北圏域内での連携を呼び掛ける内容のことを書いているが、この全国に存在する「ドラゴンアイ」のことから、一つのテーマで他地域との連携を図ることの可能性の大きさにも思いが至った次第である。とりあえず、「ドラゴンアイ」については、「全国ドラゴンアイマップ」など作って、一緒に盛り上げていけたら面白いかもしれない。



鳥ミング



ダケカンバ



水鏡5



狛犬が鳥を食った



ニホンタンポポ



水鏡5



マイヅルソウ



水鏡

シリーズ 遠野 の自然

「遠野 の芒種」

遠野 1000 景 より

人間の暮らす環境がどのように変化しようと、また何らかの変化に慌てふためき大騒ぎしようと大自然はその運行を止めない。四季の推移とともに変化する遠野の風景を、写真を通してみるたびにそうした

思いを強くする。そして安心する。不動のものを確認してはじめて落ち着く。動物も植物も、生まれ、盛りを迎え、衰え、そして死んでいくが、けっして嘆いたり、抗ったりしない。

我が身に起こるそうした変化を静かに受け入れ、楽しんでるように見える。人間の理想の生活はそうしたものだろが、なかなかそのようには達観できない生き物のようだ。

許されざる東京五輪と 右翼的左翼の天地？東北の事

先日私の散らかった部屋を整理していたら、ある懐かしい一冊の本が出てきた。それは『インパクション』というA5サイズの定期刊行物で、その表紙には、『特集・地方から「東京政治」を撃つ』とある。二〇一三年、東京オリンピック招致が成功したという報道が為された直後に編纂されたものだ。

当時の私はこの五輪招致に対し強い憤りの感情を抱いており、この表紙のインパクト一つで、普段まず買わないような政治色の強い当雑誌を手にした訳である。招致以前、東日本大震災からの復興にはほど遠いという世論と地域の声があった。



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始めると東北好きである。

のほとんどが独裁的恐怖政治に陥り理想国家としては失敗、日本でも全共闘や連合赤軍の結末により左翼的な思想を前面に出す事は多くの人にとって憚られる事となった。とは言え、資本主義の生む不平等社会に国民年金や労働組合などの社会主義的相互扶助制度を取り入れる事によって、私達の生活はバランスを保ってきたと言えるかも知れない。

ところで左翼寄りと言われる考えの中には「中央対地方」「反東京至上主義」という傾向もあるらしく、つまり左翼系とされる当雑誌において、今回の東京五輪招致は国家による権力の乱用であり、国民への搾取と弾圧の象徴でもあった。

『アンダーコントロール』と世界を騙した安倍・猪瀬の言動はいずれコントロールできないような代償を伴なう事になるだろう(要約)という序文での一節には、今を生きる人ならば、もはや誰もが戦慄を覚えるのではないだろうか。おそらく書き手自身がこれを記した当時、想像もできなかった「コントロールできないような代償」が日本を襲い、のみならず世界を既に一年以上、もしかすると今後数年、席卷する現実が目前にあるのだから。

オリンピックについては、以前にも宮城県出身の漫画家による『AKIRA』の

にこないとも限るまい、と思ってしまうのである。五輪招致の背景に浮かび上がる東京と地方との関係性を考察した記事は、東北に住む人間には切実に引き付けられる興味深い箇所だ。特に戦後の集団就職などで東京に定住した世代の子供たちが首都圏を離れず、またその子供たちが地方を知らぬまま更なる都心回帰に動くのが現在の「超都市化」ともいえる東京一極集中の新たな局面なのだといふ記述は印象深い。この事が東京の地方への無理解、配慮の欠如に繋がっているのではないかとという主張であるが、一方で個人・企業レベルでは地方への関心を強め可能性を見出す事例も決して珍しくなく、地方を知らずに育った新たな世代が逆に東京に限界を感じ、未知なる外界としての地方をフロンティアとする、その一見ささやかな動きもまた新たな局面と見るべきではないかとも感じる。

『インパクション』には「東京五輪中止」と発表がなされた途端、霧が一気に晴れるように全てが解決してしまうのではないかと、そんな非科学的な事まで考える程である。こうなると、この期に及んで「アルマゲドンが来ない限り開催」などと言っていたら、洒落ではなく本当に最終的・破滅的な出来事がトドメを差し

口大移動が起きて、新たな東京があらちちに誕生するだろう」というような希望？的展望が見え隠れしていた。無論、二〇一三年当時は未だ原発事故による放射能被害への不安・恐怖心は新鮮なものであったから、三百キロ離れた首都圏以前に、百キロ足らずの仙台始めとする東北南部など、十年後には廃墟になっているのではないかと、と考える人もいなくはなかったかも知れない(事実事故当時私は原発関連の上層に勤務する友人から最悪の事態の可能性を示唆する「即ち東北全体が汚染されるかも知れない、という内容のメールを受け取っている」)。

『インパクション』には「放射能に汚染された東日本から逃れ、西日本に移住する事をおすすめする」といった論調の記事が散見された事だ。当然「棄郷」すべき地と暗に示された土地には東北も含まれている。そのような記事には、「今後、東京からは多くの人々が脱出し、西日本各地に人

耽溺するのであれば、確かに左翼的集団が多数派の支持を得る事はないだろうと思ってしまう、そのせいかどうかは不明であるが雑誌『インパクション』はこの翌年二〇一四年に休刊となつてしまったのである。

ところで、この私・奥羽越現像自身は、左翼なのであるか？確かに、私は過去の拙稿で「アナキスト(無政府主義者)」について書いた事もあり、つまり国家権力に対する反発や抵抗の動きに魅力を感じる人間ではあるのかも知れない。仙台における、ある古い友人が私に言った事がある。「君は東北に関してバリバリの原理主義者だね！」

原理主義とはキリスト教の用語で、聖典の記述を文面通りに解釈・盲信する態度の事だ。これは日本では「古事記」や『日本書紀』を真実と盲信し、例えば天皇は初代神武から実在したと信じるに等しい事であるから、即ちこれは真性の右翼という事だろう。友人の主旨はおそらく何かを盲信するというよりは、私がまず何においても東北第一主義者だという事だ。たと思われ。その意味においては、確かに私はナシヨナリスト即ち右翼だ、という事になるかも知れない。

こう考えると、一個人が右翼か左翼か、というのは相対的に変化する尺度であるとも思える。国家主義者

雑誌『インパクション』インパクト出版会

が右翼とされるが、その国家に叛逆し、革命を画策すればそれは左翼であると言われる。しかし、その左翼が新たな国家を別に作り出し、その国家を第一として統治すれば彼は左翼のままではなくなるだろうか。どこかの国のように、叛逆すべき権力を倒したはずが、その権力に置き換わって逆に民衆弾圧を始めた勢力を依然左翼と判断して良いのか、私には疑問である。

ここ日本の東北においては、少なくとも平泉藤原氏以来八百年以上に渡り独立の政権を持たない為、実質的な「東北視点」での右翼は存在し得ない。そもそも、東北の基層的アイデンティティと私自身が考えている「蝦夷」自体が左翼的概念であつて、もはや反骨である事、権力に抗う事そのものが存在意義化するならば、現政府を批判してばかりで決して政権を担う事はできない野党と同じになってしまう。そうではなく、東北が蝦夷である必要がなくなる、即ち自らの国を持つ事があるべきではないのか。

そんな風に考えてしまふ私は、果たして右翼なのだろうか、左翼なのだろうか。菅義偉総理大臣について、思う事がある。初の秋田県出身の首相という事だが、個人的には安倍内閣という、長州閥内の秋田人でもある構図が、他ならぬ戊辰・東北戦争での秋田藩の奥羽越同盟裏切りを想起させて何とも心地の悪い思いがするのだ。秋田という風土や人間自体は凄いいポテンシャルを持つているのに、中央と繋がりが出ずと、秋田や津軽、総じて東北が途端におかしくなり、ろくな事にならない気がする。今や国民の大多数が国家や政治自体を信用できなくなつてしまつた現在、東北が蝦夷として「左翼」のままであり続けるべきなのか。それとも新しい国の形を自ら示す事ができるのだろうか。東北人は今一度中央を離れ、自らの国と政治を手掛ける実験という修羅場を、想定すべき時にいるのかも知れない。

シリーズ【東北の災害の歴史】 第2回

十和田国立公園、奥入瀬溪流はカルデラ火山の跡だった 火山よりも何十倍もの規模のカルデラ噴火のすごさを想像してみる

十和田カルデラは何万年も前の話ではない

筆者もこのシリーズを開始するにあたって、カルデラ火山のことを少し調べてみた。

調べる前は、正直に白状すると、鹿児島沖の「鬼界カルデラ」以外はすべて何万年も前の出来事だと思っていた。しかしまったく違っていた。

そしてカルデラ火山のひとつ、十和田カルデラを調べてみたら、千年と少し前にも噴火しているではないか。驚いた。

シリーズを開始し、調べた結果を広く伝えることは、災害対策上もやはり重要だと思っただ次第である。

十和田カルデラ火山

気象庁サイトによれば、

十和田カルデラ火山の全容としては、先カルデラ成層火山群、十和田カルデラ、後カルデラ成層火山・溶岩ドームからなる。

約二十万年前から活動を開始し、玄武岩質安山岩・デイサイト質の度重なる溶岩の流出と爆発的噴火によって先カルデラ成層火山群が形成された。

その後、約五万五千年前からカルデラ形成期に入り、それまでより規模の大きなプリニー式・マグマ水蒸気噴火を繰り返すようになった。

比較的規模の大きな火砕流噴火は少なくとも三回発



十和田全景 北東側上空から 2008年3月23日 気象庁撮影



今は静かな湖だが・・・



近くの十和田神社の礎石も溶岩



奥入瀬溪流も火砕流の産物

生じた。約五万五千年前には安山岩・デイサイト質の奥瀬火砕流、約三万六千年前には流紋岩質の大不動火砕流、約一万五千年前にはデイサイト・流紋岩質の八戸火砕流が発生し、これらの噴火の結果、直径約11kmの十和田カルデラが形成された。

後カルデラ期では、約一万五千年～一万二千年前

の間に、カルデラ内南部において断続的な溶岩の流出と爆発的噴火が発生し、小型の玄武岩質安山岩・安山岩質成層火山(五色岩火山)が形成された。

その後、主にデイサイト・流紋岩・マグマの活動へと移行し、西暦九百十五年までの間に少なくとも八回の爆発的噴火を行い、五色岩火山の山頂部に直径3kmの中湖火口が形成された。また、後カルデラ期においては、御倉山(おくらやま)溶岩ドームと御門石(みかどいし)溶岩ドームが形成された。御倉山溶岩ドームは、約七千六百年前に五色岩火山北東山腹で発生したマグマ水蒸気噴火に引き続いて形成された。

こう記載されており、一連の火山活動は二十万年間に亘って続き、最も新しい活動が西暦九百十五年ということである。

ということは、縄文時代が始まった今から一万六千五百年前から何度も噴火が起きており、

一万六千五百年前の列島最古の縄文土器が発掘された津軽半島外ヶ浜町の大平山元遺跡に暮らしていた当時の縄文人はそれを見ていたし、火山灰や火砕流等の被害にも遭遇していたということになる。

過去1万年の噴火活動

さらに気象庁のサイトから十和田カルデラの過去一万年の噴火活動に焦点を当て、その詳細な歴史を拾ってみる。

それによれば、前述のように、一万五千年前の大規模噴火によって、現在見られる十和田カルデラの原形が形成されたのであるが、カルデラ形成後、断続的な噴火活動が約四千年間にわたって継続したとある。

その後、約一万年前からにはマグマの活動が主体となり、現在までに少なくとも8回の爆発的噴火が発生した。

そのうち約七千六百年前の噴火があり、最新の噴火が、約1000年前の平安時代(古文書によると西暦915年)に発生したとある。

こう見てくると、カルデラ火山噴火は遠い大昔の災害ではないことが理解できる。約数百年から数千年という時間単位ではあるが、何度も噴火等が発生しているのである。

知らないということは、同時に、こうした歴史を国中に広める努力も惜しんではならない。

十和田周辺の観光スポットも違って見える

以前、十和田周辺の縄文遺跡を見るついでに、十和田周辺を見て回った。

十和田湖はもろろん十和田神社、奥入瀬溪流も見た。しかし、当時はカルデラ火山噴火のことなど考えもしなかった。

今は違う。十和田湖は巨大カルデラ火山の大噴火の跡であり、十和田神社の巨石群は噴出した溶岩であり、奥入瀬溪流も火砕流の跡なのである。

約数百年から数千年という時間を隔て発生してきたカルデラ火山噴火だが、必ずしもこれまで通りの間隔で発生するとは限らない。早くなる可能性も十分にありうるのだ。